

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	しまねの西条柿（あんぼ柿）もうける産地育成事業		
目的	(1) 対象	園芸品目の生産者、関係機関、団体	
	(2) 意図	生柿にあんぼ柿を加えた儲かる西条柿栽培を推進し、産地の再生を図る。	
事業概要	西条柿生産者の安定した所得向上を図るため、市場等から要望の高い、干し柿（あんぼ柿）の生産を推進し、これまでの生果にあんぼ柿生産を加えた儲かる西条柿栽培を推進する。特に、新規団地の整備やあんぼ柿拠点施設の整備を進め、生果・あんぼ柿の生産量の安定化と品質の統一を図り、産地直接販売や市場流通による予約相対取引等の契約的取引を拡大し、産地再生を図る。併せて、あんぼ柿加工を拠点にした6次産業化（産地間連携による地域産業の創出）を進めることにより、新規栽培者の確保と雇用の拡大を図る。		

2.成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 主要園芸品目の契約的取引率（西条柿（あんぼ柿））	目標値	5.0	10.0	20.0	25.0	30.0	%
		取組目標値						
	式・定義 あんぼ柿の契約取引額／あんぼ柿販売額	実績値	5.0					%
		達成率	100.0	-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	-	48,000
うち一般財源 (千円)	-	13,000

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 生産者の高齢化による担い手不足や生産量が減少している。
・生産者の減少（H17：683戸→H26：333戸）・栽培面積の減少（H17：572ha→H26：372ha）
- 生果の販売単価の不安定により生産者所得が不安定となっている。
・隔年結果により生産量、単価が不安定（西条柿生産量 772 t (H17)～360 t (H25)、単価 206円/kg(H17)～342円/kg(H25)）
- 一方、あんぼ柿については、関西市場や関東、瀬戸内から、西条柿あんぼに対するニーズが高まってきている。
・販売金額の増加（H17：44,579千円→H26：97,157千円）
- 中山間地域において、あんぼ柿加工を拠点にした、6次産業化の動きがある。

6.成果があったこと（改善されたこと）

国庫事業を活用した、あんぼ柿加工拠点施設整備や西条柿園リース団地造成計画が動き出した。

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
高齢化による担い手不足、生産量の減少により産地の維持が危ぶまれており、地域維持や県農業に大きな影響が心配される
- ②困っている状況が発生している「原因」
60歳以上の生産者が80%を閉めており、栽培のとりやめ等により栽培面積が毎年2～3ha減少し、生産数量が減少している。併せて、単価の低迷等で、収益性が低く、若い担い手の確保・育成が進まない。
- ③原因を解消するための「課題」
生産から加工・販売までの6次産業化（地域産業の創出）の動きがあるが、生果の隔年結果や廃園の増加により、加工原料確保が不安定となっている。又、あんぼ柿の販売額が増加しているが、生産者に還元できるまでの体制が不十分で、生産者の儲かる経営にまでつながらない。
高品質な加工品を安定して出荷できる産地体制を強化し、また産地の希望価格にそった価格で安定的に販売できる体制構築も課題となっている。

8.今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

従来の生果主体の経営から“生果+あんぼ柿”の経営へ転換し、生産者の儲かる経営と地域産業の活性化を目指す。
・生果は単価安定に向けた連年安定栽培を推進し、高品質生産・出荷調整による単価向上を図る。
・又、あんぼ柿については、製造量の拡大、品質、規格の県下統一を進め、契約的取引の拡大等の有利販売を図るとともに農家所得へ還元する仕組みを構築する。

9.追加評価（任意記載）

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。